

## 北インドの仏教遺跡を巡る Visit to Buddhist pilgrimage sites

## －夏のルンビニ現地視察－ -Field survey of Lumbini PJ-



7月15日（日）～23日（月）にかけて、ルンビニプロジェクトの現地調査が行われました。北インドの仏教遺跡の視察旅行も行われ、充実した滞在となったようです。

特任研究員 傅 舒蘭

After a long night flight and 2 transfers, our Lumbini project team finally arrived at the Bhairahaw airport. This visit has a main purpose to attend 2nd International Scientific Steering Committee Meeting of UNESCO/JFIT Lumbini project, and present about our activities and outputs during last year. Also, in the meeting, we discussed with other 3 expert teams which involved in this project, and proposed our implementation plan for the next year. Compare with the 1st meeting, more participants from other Projects in Lumbini area (ABD, KOICA) and stakeholders came, shared the information

and showed positive attitude to cooperate. After the meeting, our team departed toward India for site visiting of 3 other Buddhist pilgrimage sites, in order to study current problems and define the uniqueness of Lumbini by comparison. We crossed the boarder by foot and traveled long hours by bus on the route of Buddhist pilgrims to visit Kushinagar(death), Budhgaya(enlightment), and Sarnath(first taught). Not only the archeology remains but also the pilgrimage atmosphere was marvelous and attractive. But all the three other sites do not have a master plan or a conservation plan

to control the development in surrounding area. Especially Budhgaya which was also dominated as a World Heritage is under a very serious development pressure and management problems now. Thanks to Tange's master plan, Lumbini keep its Sacred and Silence atmosphere till now, and it is also our responsibility to adjust it and make it still function nowadays.



▲ Attend the ISSC meeting



▲ Fill in immigration form on the board



▲ Team photo in front of Temple in Budhgaya

## ユネスコユースカンファレンスに参戦！

### The Youth Model of the World Heritage Committee was held in Russia

UNESCOの世界遺産委員会第36回会合にあわせて企画された、世界遺産委員会各国のユース委員会。ロシアで開催された会合に、7月1日～9日の9日間、日本代表としてM1 児玉が参加してきました。

M1 児玉千絵

開催都市であるカザンはモスクワより東に約800km、北欧のスカンジナビア方面とベルシャ・ギリシャ方面を結ぶ重要な交易路であったヴォルガ川の中流に位置し、イスラームを受容した遊牧民族によるタタール文化とロシア帝国による支配の影響が共に窺える歴史ある文化都市で、近現代以降もその地の利から商工業が順調に発展し現在人口は100万を越えています。さらに近年は世界遺産であるクレムリン（要塞）を核とした観光産業や、来年のユニバーシアード開催に向けた大規模スポーツ施設等の新規開発も進んでおり、会期中はこれらの見学を通して文化的な文脈を巧みに取り込みながら市街地開発を進めていく都市戦略の勢いを肌で感じました。

補地の紹介に加え、世界遺産の持続可能な保全のためにその価値を伝える教育活動の重要性が主な議題として取り上げられ、これは近日中に final document として正式発表される予定です。会期中を通して、英仏露同時通訳があるため適当な言葉では誤魔化せない白熱した議論や、各国参加者の鋭い知性と海のような深い人格の魅力に触れ、とても刺激的な経験となりました。



▲市中心部では歴史的建造物の修繕が進む



▲初日会合の様子（City Hall にて）

会合では各国の代表者による世界遺産候

## "Road to Doctor"

An Essay by doctoral student vol.2!

人数の多い都市デザイン研究室。よりお互いの研究について知る機会を作ろう！ということで、博士課程のメンバーの研究内容に迫るコーナーです。第2回目はD3の王さんです。

## 「台湾における新式製糖工場による地域変遷・再生に関する研究：旧台南州を中心に」

D3 王新衡

台湾に残る日本統治時代の近代化産業遺産は台湾のみならず日本にとっても重要な文化財と言えます。特に、かつて世界第三位の砂糖産量を誇った新式製糖工場群や高密度糖業鉄道網などの製糖産業遺産は保存すべき文化遺産です。実際、本研究の調査によって、製糖工場および鉄道のネットワークは台湾の最も重要な近代産業遺産であることが分かりました。しかしながら、現在製糖工場を単体として再利用されている事例が多く、糖業鉄道の保全が進んでいません。さらに、遺産の保存価値の問題により長い間、製糖工場および鉄道網は放置されたままとなっており、取り壊されてしまったものもあります。

近代化産業遺産が持つ価値は、個々の遺産の単位では伝わり難く、産業史や地域史のストーリーを軸に、相互に関連する複数の遺産をネットワークしなければ

なりません。そこで、本研究は、台南州における製糖産業と都地域変遷の歴史的視点から再評価し、活用を促すとともに、糖業鉄道沿線の大規模製糖工場群のネットワーク構築を推進し、文化施設・観光資源としての活用や文化財保全の方法という重要課題に取り組むため、複数産業遺産の連携を計画することを目的とします。つまり、台湾総督府の殖産興業や、製糖企業の経営戦略による近代的製糖産業や集積の歴史と、地域盛衰との関係を具体的に解き明かします。さらに、廃業した製糖工場による地域産業の空洞化から地域を再生するため、かつての製糖システムに関わる産業遺産群全体の保全のポテンシャルを探します。

最後に、今年の研究室旅行の予定は台湾の近代化産業遺産保全とまちづくりがテーマなので、皆さんからのご指導を期待しております。



▲製糖を続ける雲林県の虎尾製糖工場



▲住民主導による糖業鉄道・駅保全も行われている

## プロジェクト報告

Tamura-project  
田村プロジェクト

社会実験に向けた取り組みを報告して頂きます！

M1 岸畑 明宏

田村プロジェクトでは田村市常葉町で8月に3つの社会実験を実施する予定です。私が携わっているのは、3つのうちの1つである「ときわの家プロジェクト」で、社会実験の内容は、常葉町の中心部の空き店舗を改修して、様々な年齢層の住民の方々が交流出来るスペースを作成するというものです。地元のプロジェクトメンバーの方々と調整しつつ、8月終盤の開店を目指して活動しています。

最後に告知です。現在、計画している交流スペースの名称を募集しているので、興味のある方やネーミングセンスのある方は是非 UDCT の HP (<http://www.udct.jp/>) をご覧下さい！



▲常葉町の街並み



▲利用する店舗の下調べ

## 夏の BBQ 大会開催！

BBQ party was held @10F

コンパ係による、BBQ 大会の報告です！

text\_hagiwara

7月13日(金)、近年恒例となっている BBQ 大会が10階のテラスにて行われました。時折小雨がぱらつく天気となりましたが、BBQ 奉行的なナツポンさんの活躍もあって、火起こし等の準備も滞りなく行うことが出来、肉や野菜に加えて餃子やデザートなど、各自が思い思いに持ち込んだ食材を堪能することができました。途中、ジュリー後の3年生や演習の休憩に訪れた4年生、他研究室の学生も飛び入りで参加し、幅広い交流のきっかけともなりました。夜も深まった頃には、西村先生、窪田先生、黒瀬先生も合流されて最後まで多に盛り上がる会となりました。



▲いい燃えっぷりです！



▲10階からの夜景と夜風を感じながら

## Information

7・8月の予定

7月25・26日	修士ジュリー
7月28日	清水 PJ 現地講演
7月30日～8月4日	研究室旅行&ワークショップ
8月8日～10日	鞆 PJ 現地調査

## \* 編集後記

北川 貴巳

夏になり、地元ではお祭りに向けて囃子の音が聞こえるようになりました。自分も小学生の囃子練習を担当しているのですが、自分の子供の頃の記憶と異なる風景に度々思うことがあります。列に並ばせ皆公平に練習させるといふ、やけに秩序化された、当然とも言える今のやり方に違和感を感じるのです。昔のような、大人の囃子を必死に各々学びとっていく、少し横暴なやり方がしっくりくる自分にとって、今の風景はどこか寂しい感じがしてしまうのです。